# **きたのは突然だった**

冷たい風が吹いて

きたのは突然だった

夏があっというまに

僕の目の前から

楽しかった思い出が

この夏は戻ってこない

見上げた向こうに

特別な毎日が目まぐるしく過ぎて

暑さに疲れてもいろんな刺激の中

忘れられない日々よ

思った以上喜びを感じた矢先に

白いシャツが眩しかった光の中で

思わず目を閉じたあの時に

まぶたに描かれたアツい模様を

今では見ることできなくて

冷たい風が吹いて

きたのは突然だった

別れがあっというまに

僕の目の前から

楽しかった思い出が

この時間短かったため息の向こうに

特別な毎日が目まぐるしく過ぎて

気ぜわしく過ごしても

いろんな刺激の中

忘れられない日々よ

めぐり逢った喜びを感じた矢先に

白いシャツが眩しかった光の中で

思わず目を閉じたあの時に

まぶたに描かれたアツい模様を

今では見ることできなくて

# **秋になって**

秋になって雨も上がって

涼しくなった　風も吹いてきた

ふとしたはずみ起こる感情

秋の心と書いた「愁（うれい）」が

さみしい気持ちと物悲しい気持ちが

何でもない僕でも詩人にさせる

今心の底に流れて消えてゆく

思いを捕まえようとしても

二、三度音をたてて

引いてく波のように

次第に小さくなってゆく

秋になって空も高く

薄くなった　雲を見つめる

ふとした時になんだか寂しい

気持ちになって思いにふける

何かを感じてセンチになる気持ちが

何でもない僕でも詩人にさせる

今心の底に流れて消えてゆく

思いを捕まえたところで

言葉にした後は

なんだか違うニュアンス

次第に変わってゆく

# **天使の梯子**

降りて来た天使たち

光のカーテンから

曇り空突然きれて光芒広がる

偶然とはいえども見えた時は

何か良いこと起きる予感

これまでのことは全て

正しかったと言われてる

迷うことなく前向きに

躍動してゆけばいい

太陽は雲に隠れ直接見えなくても

存在がはっきりわかる

向かう車窓（まど）の向こう

空が織りなす壮大なアート

時が許す限り眺めて

天使の梯子が見れたら

きっと幸せになれる

いくつかの運が重なり

いつでも見れるわけでない

これまでのことは全て

正しかったと言われてる

迷うことなく前向きに

躍動してゆけばいい

# **​うごめく光**

歴史ある灯台に上り詰めて海を見た

飛ばされそうな帽子押さえ

見下ろす波うごめく光

コンクリートの階段

まわりながら登って

降りる人とすれ違い

最後の梯子まできた

背中をぶつけそうな

穴をくぐったところで

最上階スラブから

眩しい外に出られた

遙かに見える遠くまで

広がる大海原に

流れる波の大きさにも

圧倒されそうになる

下に降りて見上げれば

綺麗な白空に映える

灯台守に守られて

波のように白く光る

無料駐車場からサンロードを渡って

海岸につながる広い階段降りて

波食台地の隙間に歩き回る小ガニが

波が打ち寄せるたびに

隠れて見えなくなる

目の前しぶきを感じて

広がる大海原に

打ち寄せる波の音にも

圧倒されそうになる

東みれば日本一の山が見える御前崎

​空の中に頂が

浮かぶように白く見える

​

# **一人になりたくて**

ああ一人になりたくて

夕暮れの街から海へ続く道を

何も持たずにただ歩くだけで

気づいた時最後の道を渡っていた

すこしずつ冷たくなって

腕にかけてた上着広げて

両手を伸ばして袖に通す

薄暗くなった砂浜降りて

波打ち際からすこし離れたところ

西の空がまだ明るく

左の耳に感じる波のざわめき

すこしずつ人がいなくなり

一人二人と帰ってゆく中で

寂しくなってまた人恋しくなる

# **黄色い田んぼ**

秋の田の刈穂のいおのとまをあらみ

夜露濡れるソデを悲しむのでなく

夜を静かに黙想するような静寂

大事な稲刈りを明日に控えて

泊まり番する昔の人のように

辛いばかりでなく喜びもあったろう

秋の夜　清々しさが

心待ちにつながる時

黄色い田んぼ日差し受けて輝き

黄色でなくてまさに黄金色になり

その風景は壮大なひとときになる

すこし曇って透明な風が吹いて

トンボの羽時々きらりと輝く

曇った時穏やかに明るいじゅうたん

秋の風　透明さが

心待ちにつながる時

# **また動き始める**

どんなにため息出したことだろう

立ち止まり振り返り

動きも止まる

疲れた心に体もこわばり

自分らしくいられない

無理がたたり

すこし休まると気を取り直して

自分の心に気づきを感じて

どうでもいいこと考えてしまい

立ち止まっても仕方ない

また動き始める

演じてばかりが疲れる原因

そんなことするよりも

素直でありたい

時には何もかも全て消去して

新たな生活もいいかもしれない